第３回小島嶼開発途上国（SIDS）国際会議
牧野政務官スピーチ（マルチステークホルダー）（９月２日）

ご列席のみなさま,

本日，ガルシア＝マルガージョ・スペイン外相と共に,
マルチステークホルダーとの対話の共同議長を務めることができることを
嬉しく思います。

日本において，サモアは，その美しさに加え,
勇壮な踊り,「シヴァタウ」によっても知られています。

サモアの国技，ラグビーの試合前にも踊られるこの踊りが,
今年の５月，日本で開催されたサモア対日本戦の際にも披露され,
日本の観衆を魅了しました。

両国のチームが善戦したラグビーにおけるように,
「気候変動と防災」という課題について，ＳＩＤＳ（シッズ）と国際社会は,
スクラムを組んで取り組んでいきたいと考えています。

日本としましては，ＳＩＤＳに対して,
気象観測のための機材整備や，住民向け避難訓練,
ラジオ放送の整備や洪水ハザードマップの導入を
実施してきました。

また，現在，
「太平洋地域環境計画」加盟国やトゥイラエパ首相から直接要請のあった，
サモアに事務局を置く「太平洋地域環境計画」への
「気候変動センター」建設の支援を検討しております。

加えて，
来年３月には，東日本大震災の被災地で「第３回国連防災世界会議」，
５月には，同じく被災地にて，「防災・気候変動」もテーマとした
「第７回太平洋・島サミット」を開催しますので，
各国ハイレベルより是非参加頂きたいと思います。

また，本日ご参加のカイト世銀副総裁から，
世界銀行の新たな取り組みについてご紹介があると承知しています。
日本政府としても，このような取り組みを支持すると共に，
世界銀行を初めとする各国際機関との連携を強化していきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。